

平成29年度 第2回尾張東部教科用図書採択地区協議会 議事録

- 日 時 平成29年7月11日(火) 14:00
- 場 所 スカイワードあさひ ひまわりホール
- 出席者 協議会委員 35名 (欠席0名) 研究部長 1名

1 開 会

- 開会宣言

2 会長あいさつ

- 尾張東部教科用図書採択地区協議会会長よりあいさつ
 - ・ 本日の会議は、教科書採択の公正確保のため、非公開で行うことを確認する。
 - ・ ここに至るまでの経過報告。
 - 5月9日(火)と5月23日(火)に本協議会の研究員打合会を開催し、その後、教科用図書について研究。
 - ・ 本日、その研究成果を報告するとともに、委員の協議により、本地区の子どもたちにとって一番ふさわしい教科用図書を選定していきたい。

3 協議方法について

- 選定の方法
 - ・ 協議会の会議において、委員全員の一致によって決まる。
- 資料の確認
 - ・ 愛知県教育委員会採択基準
 - ・ 尾張東部教科用図書採択地区協議会選定資料
- 協議進行の手順
 - ・ 研究部長より、選定資料をもとに各教科用図書の説明
 - ・ 研究部長に質疑
 - ・ 研究部長退席後に、協議・選定

4 教科部長報告及び質疑、協議

- 研究部長の報告
 - ・ 東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、光文書院、学研教育みらい、廣済堂あかつきの8社について研究し、報告(学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等)。
- 質疑
 - ・ 児童の一年一年の確実な成長につなげることができるよう、全学年を通して、内容項目が配列されているか。
 - 各社それぞれが、学校生活の実態とそれに伴う児童の一年の成長や発達段階に応じて、一時間

一時間の学びが有機的に結び付くように内容項目間の関連などを考慮し、指導の順序を意識した教材の配列が工夫されている。また、他教科との関連や、いじめなど特に児童の心に届けたいものが分かりやすく表示されている。

- ・ 特別の教科となり評価を進めなければならないが、各教科書が評価についてどのように考えているか教えてほしい。

→ 児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を捉えるために、児童が1年間書きためた感想文をファイルしたり、年間35時間の授業という長い期間で見取ったりするなど、大きくりなまとまりを踏まえた評価を進めなければならない。教科書によっては、付属のノートやワークシートが用意されている場合がある。それらを活用して評価に生かすことが可能である。しかし、指導者にとっては、主発問や授業展開を工夫できる形式であることや、児童にとっては、記述する分量が適当であることなどへの配慮が必要である。

- ・ 現代的・社会的課題への対応について、どのように取り扱われているかを教えてほしい。

→ どの社も生命の尊重を一番大切な基本としている。いじめの防止、安全の確保、情報モラル、社会の持続可能な発展、この四つの観点から、重点的に教材が配置されていると感じた。児童たちが多様な視点から考えを深められるように教材の工夫が図られている。視覚に訴える教材も非常に多く、考え合い、話し合いのしやすい教材等、社会の一員として資質を育てるような教材が配されている。

- ・ 学習指導要領にある自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習をするために、教科書の内容はどのように工夫されているか。

→ 今まで私たちがやってきた定番となる教材、自分の生き方を深く考えることにつながる人物の教材、いじめ問題や情報モラル等の現代的な課題を扱った教材、問題解決的な学習・体験的な学習を促す教材など、さまざま観点で教材が精選されている。また、教材を通して、道徳性を育てるために、児童の主體的・対話的で深い学びを促す工夫がされている。児童がよりよく生きるための資質・能力を身につけるようなものとなっていると感じた。

- ・ 一時間一時間の授業がスムーズに展開できるように、教材の分量や構成の工夫がされているか。

→ どの教材も、導入段階として発達段階に配慮した、児童が興味・関心をもち、主体的に教材と関わられるよう工夫されている。また、めあてや考えを深めることができるような問いが示されており、段階を追って無理なく授業が展開できるように構成が工夫されている。子ども達が一時間で考えを深め、話し合いを深めていけるような展開が、どの教科書会社も配慮されていた。ワークシート、デジタルデータなども各社とも分かりやすく使われていて、実際に視覚に訴える場面、動くもの、動画が採用されている場面もあり、子どもたちが考える資料としては、本当に素晴らしいものがたくさんあって、一時間一時間の授業が、子ども達を引き込み、深い考えに結び付けていけるような工夫が、それぞれの会社で見られた。

○ 協議

- ・ 光村図書出版が適切だと考える。その理由は3つ。1つ目は、あいちの教育の基本理念の最初に、共に生きるというキーワードが謳ってある。光村ののを見ると、やはり共生、共に生きるというところがクローズアップされている。2点目は、指導要領との関連だが、教材が非常に多様に掲載されていて、最終的に児童が主体的に考えるように配慮されているので、指導要領に特

に沿った内容であると判断する。3つ目は研究部長の話の中にも、授業に使いやすいという言葉が出てきた。その根拠として、全学年にいじめの問題に結び付く教材とコラムをユニットとして形成する、設定する、いじめについて発展的に考えることができるよう配慮されていると読み取れる。また、教材の最後に「考えよう」というコーナーを設け、改めて、一時間一時間のめあて等をしっかり考えた上での問いを用意されていると教科書を見て感じた。

以上の点で、授業に使いやすいというのは、授業に安心して取り組めると思うので、光村の教科書が適切だと思う。

- 非常に魅力的な教科書もたくさんあると思っているが、私がいちばん目を引いたのは、光村図書の指導書であった。とても分かりやすい解説がされているし、授業のしやすい配慮がされていた。先程の方からもあったが、教師が、授業がしやすいというのは大きな要素ではないかと思う。それからまた、付属のワークシートがあった。他の教科書会社を見ると、別冊のノートが用意されているものもあるが、光村のものは、授業者が自由に編集できるようになっているので、授業をする者としては、工夫の余地があって非常に使いやすいのではないかと思う。
- どれも工夫がされていて、素晴らしい教科書だった。東京書籍は、現代的な課題について発達段階に応じた教材が適切に選択されていたと感じた。また、日本文教は、一つの考え方に偏らず、多面的・多角的な見方や考え方ができるよう配慮されていると思った。授業者が取り組みやすい、子ども達も取り組めるような内容になっていたところが光村図書はよかったと思う。この3社のいずれかが、各学年で特に身に付けてほしい道徳性を重点項目として設定し、自分のこととして考えやすい教材を取り上げていること、また、心に刻まれる、引き込まれる教材が多く、児童が深く考えることができるような資料が掲載されていてよいと思った。
- 日本文教出版は、児童が問題意識を持って、多面的・多角的に考え、道徳的価値を理解できるよう工夫されていた。光村図書は、評価がしやすいように編集されている点がよいと感じた。道徳の教科としての評価は今回が初めてのことから、手掛かりがつかみにくいところがあるが、子どもの成長を教科書にそれぞれ書き込み、それを読み取ることでできるという、評価計画がしっかりできていると感じた。両者ともに甲乙つけがたくよいと思った。
- 私もずっと目を通させていただいて、どの教科書もすごく工夫されていて素晴らしいと思うけれども、実際自分が教師となり使うようになって考えると、色々不都合な点が出てくる会社もあって、ちょうど光村図書の学びの記録というものが、1学年で4つに分けてあり、あれくらいがちょうどいいかなと思った。別冊に分けてある会社もあるが、あれだけ規制されると、実際に担任としてやった時に、会社によっては保護者の欄もあり、あれを埋めるとなると、記録をとるのに時間を取られてしまって、実際に道徳的な価値感を子ども達に主体的に考えさせるとなると、かえって扱いにくいと思う。日本文教出版などはとてもよい教材が配置されていると思うが、別冊のノートで授業の道筋が決まってしまう恐れがある。何社かは別冊になって道徳ノートがついているが、実際に毎週授業をするとなると、子ども達がノートを忘れてきたりするが、光村の場合は教科書さえ持ってくれば、適当な量が書けるようになっており、道徳の学習の記録が自分の成長の記録として取ることもできるようになっており、光村が、一番バランス的にいいと考える。
- 他の教科書にもそれぞれに良い点は挙げられていたが、特に道徳という教科については、子ども達の心に染み通るような、心情に迫るような、そんな内容でいうと、光村図書の出されている素材は、そういう点で価値があるのではないか。また、学びの深まりとつながりを意識した項目がセットで盛り込まれていること、指導の順番についても学校の実態と伴うように配置されているということ、ま

た先程も出てきたが、学習のまとまりの区切り目に学びの記録があり、そこに毎時間記録することで、そこまでの自分の学びの変化や成長を自分自身で振り返ることができること。また、児童の自己評価の記録を通して、教師も児童の長期的な成長を見取ることができるという、評価面で大きな工夫がされていると思う。

また、冊子についても取り扱いやすい大きさであり、データも活用がしやすいというメリットがあるということ、指導書についても、指導する側が取り扱いやすいというようなこともあった。

他社も様々な工夫がされているが、一点、どうしても全国版なので、それぞれの郷土に対して、それぞれの地区によさがあるので、これらの教科書でカバーできない部分もあるので、各地区で教材の工夫もいるのではないかと思った。

総合的に見て、光村図書の教科書を選定する教科書として推薦したいと思う。

- ・ 協議の結果、全員一致で「光村図書出版」のものを選定する教科書として決定。
- その他の教科用図書
 - ・ 小学校道徳以外の教科用図書については、小学校、中学校とも、採択基準にしたがい、平成29年度と同じ教科用図書を使用する。

5 その他

- 採択協議会事務局のローテーションについて

6 連絡、依頼事項

- 資料の取り扱いなどに関する連絡

7 閉会

- 閉会宣言